

ヒアリング古典 百人一首 百人一首⑩



名前 「

」

きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに

衣かたしきひとりかも寝む

後京極摂政前太政大臣

わが袖は潮干に見えぬ沖の石の

人こそ知らねかわく間もなし

二条院讃岐

世の中はつねにもがもななぎさ漕ぐ

あまの小舟の綱手かなしも

鎌倉右大臣

み吉野の山の秋風さ夜ふけて

ふるさと寒く衣打つなり

参議雅経

おほけなくうき世の民におほふかな

わがたつ杉に墨染の袖

前大僧正慈円



名前 「

」

花さそふあらしの庭の雪ならで
はな ウ にわ ゆき

ふりゆくものはわが身なりけり
み

入道前太政大臣
にゆうどうさきのだいじょうだいじん

来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに
こ ひと うら ゆう

焼くや藻塩の身もこがれつつ
や もしお み

権中納言定家
ごんちゆうなごんさだいえ

風そよぐならの小川の夕暮は
かぜ おがわ ゆうぐれ

みそぎぞ夏のしるしなりける
なつ

従二位家隆
じゆにい いえたか

人もをし人も恨めしあぢきなく
ひと ひと うら

世を思ふゆゑに物思ふ身は
よ おもウ エ ものおもウみ

後鳥羽院
ごとばいん

ももしきや古き軒端のしのぶにも
ふる のきば

なほあまりある昔なりけり
オ むかし

順徳院
じゆんとくいん